

公明党要望項目一覧

平成26年度6月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>知的障がい者の県正職員採用を進めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年、身体障がい者対象の県正職員採用試験実施を予定されているところであるが、知的障がい者対象の職員採用試験も実施すること。 	<p>知的障がい者の正職員採用については、現行の地方公務員法による人事制度では障がいの特性に応じた柔軟な任用が困難であるなどの課題がある。</p> <p>今年度からワークセンターにおいて非常勤職員の任用期間を長期化（2年→5年）し、中長期における任用面での課題の検証を始めている。</p> <p>また、現在、正職員採用を実施している他県の実情を調査しており、任用面での課題や従業務の整理を行い、今後、正職員採用に向けて具体的な検討を進めていくこととしたい。</p>
<p>矯正施設から出所する障がい者の福祉支援を進めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者には個別の支援が必要であり、そのためには関係者の横のネットワークが必要である。県内では情報が行き届いてない部分があり、横の連携が取れ情報共有ができるネットワークづくりを進めること。 	<p>これまで、地域生活定着支援センター主催で県及び関係機関が参加する連絡会議を年1回開催していたが、今年度から圏域ごとに開催することとした。また、検察庁、裁判所、弁護士会などと連携した入口支援の勉強会を新たに開催することとした。更に、地域生活定着支援センターの専任職員を増員し、支援体制の強化を図った。</p> <p>これらにより関係機関との横の連携、情報共有ができるネットワークづくりを進め、福祉支援を強化していく。</p>
<p>がん対策を進めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん治療体制の強化と充実、並びにがん検診受診率50%に向けた取り組みを強化すること。 	<p>第二次鳥取県がん対策推進計画を進める中で、「がん医療の推進」及び「がんの早期発見（受診率向上）」等に継続的に取り組んでいるところであるが、今年度からは新たにかかりつけ医との連携による受診勧奨や、企業との連携による「健康経営マイレージ事業」など、更なる受診強化に取り組んでいる。</p> <p>引き続き、医師をはじめとした医療従事者の人材育成、各種研修等による治療体制の強化充実と、受診率向上に向けた取組を進めていく。</p>
<p>社会福祉法人による不祥事・事件の再発防止を徹底すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、社会福祉法人の不祥事・事件が続き、歯止めが効いていない。最近では障害者支援施設での虐待事件も内部告発により明らかになった。県においては、あらゆる手段を講じ二度とこのような不祥事・事件が起こらないように努めること。 	<p>社会福祉法人の監査については、平成21年9月に判明したあすなろ会の不適正な会計処理を踏まえ、監査が適正かつ効果的に行われるよう組織体制や監査方法の見直しを順次進め、体制の強化に努めてきた。</p> <p>今回判明した障害者支援施設における虐待事案を踏まえ、県内全ての障害者支援施設を対象に緊急立入調査を行う外、法人内の個々の施設における虐待防止対策をはじめとする適切な事業実施について、改めて法人・施設監査による指導を徹底し、再発防止に努めることとしている。</p> <p>本来、社会福祉法人は、自主的に経営基盤を確立して内部チェック機能を強化し、内部統制を推進するなどコンプライアンスの確立が求められるものであり、引き続き、不適正な事務処理や事業の実施が行われていないか厳格にチェックするとともに、法人自ら不祥事を起こさない仕組みが作られるよう指導・助言を行っていく。</p>
<p>観光振興を進めること</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・境港竹内南地区の水族館構想を推進すること。 	<p>水族館構想は圏域の賑わいづくり方策の選択肢の一つであり、賑わいづくり計画に盛り込まれた他の構想を含め、境港市、境港管理組合、県等の関係機関で具現化にあたっての調査・検討を始めた</p>

要望項目	左 対 する 対 応 方 針 等
	<p>ころである。今後、幅広い視点と境港の地域特性を考慮した調査・検討と方策の議論に参画していきたい。</p>
<p>・米子ーソウル便の安定就航に向けた取組を推進すること。</p>	<p>米子ソウル便の利用促進に向けて、まずは日本人利用（アウトバウンド）の促進に向けて、アジアナ山陰ファンクラブの会員を増やすとともに、会員向けの利用促進策を充実させ安定化を図る。</p> <p>また地域への経済効果を呼び込むため、韓国人利用（インバウンド）の促進を目指し、従来の「温泉とかに」などの旅行商品に加え、集客が落ち込む春から秋にかけて自然体験などを組み込んだ新規旅行商品を開発し、ゴルフ、トレッキングなどの旅行商品と共に販売促進する。また、J Rと連携した山陰岡山エリアパスのPRや、まんが、グルメなどを盛り込んだモデルコースを提案して個人客の拡大を目指す。</p>
<p>・外国人旅行者の客足や消費を一段と伸ばすため、県内免税店の増加を促進すること。</p>	<p>本年10月に改正される外国人旅行者向け消費税免税制度の普及促進のため、改正概要や支援制度等の説明会を実施するとともに、窓口における相談等の受付に加え、団体や事業者等に出向いて説明等を行う推進員13名（東部：4名、中部：4名、西部：5名）を配置し、県内免税店舗の拡大を促進する。</p> <p>また、免税手続きのための備品購入代金やPR経費の助成（鳥取県外国人観光客倍增促進補助金）、県内免税店を紹介する外国語版マップの作成などにより、免税店開設に向けた環境整備を支援する。</p>
<p>・スポーツツーリズムとしてのサイクリング観光を更に推進すること。</p>	<p>新たなサイクリングロード（弓ヶ浜半島）の整備やコンビニエンスストアと提携した休憩所の整備（県内全域）を行うほか、食事処などを紹介するサイクリングコースマップの作成により、サイクリストに対して安全・安心・快適なサイクリング環境（ダイジョウブシステム）を提供する。</p> <p>今年6月にマラソンやサイクリング熱の高い台湾（台北市）で開催されるマラソン&サイクリング・ジャパン（※）に鳥取県として出展し、鳥取マラソン、ツール・ド・大山の魅力のPRを行うほか、台湾の自転車メーカー系旅行社と連携した情報発信とツアー造成により、台湾からのインバウンド促進につなげていく。</p> <p>※マラソン&サイクリング・ジャパン（6月25日、台湾台北市）</p> <p>・観光庁とスポーツツーリズムの我が国の中核的組織である一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構が中心となって、日本全国のマラソン・サイクリング大会等を世界に向けて発信するイベント【6月補正】スポーツツーリズム「サイクリングリゾート」推進事業 4, 269千円</p>
<p>鳥取空港でのC I Q体制を整えること</p> <p>・国に於いては、国家戦略として外国人観光客誘致促進に取り組み、昨年は初めて一千万人の大台に乗った。さらに進めるためには、今後地方での空や海の便での受け入れ体制を整える必要がある。米子空港だけでなく、鳥取空港でもチャーター便の連続受け入れができるようC I Q体制を整えること。</p>	<p>大交流時代を迎える中、誘客を進め更なる交流拡大につなげるためには、鳥取・米子両空港ともに一層の利用促進を図ることが必要である。鳥取空港についても国際チャーター便の連続受け入れ等に対応できるC I Q体制の充実に向け、引き続き国に対し働きかけを行う。</p>

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<p>米子鬼太郎空港、鳥取空港を観光並びに地域活性化の拠点として活用すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛行場や空港は航空機輸送以外にはあまり利用されていない。空港ならびに周辺施設を、道の駅ならぬ「空の駅」として活用し、観光振興や地域活性化に資するようにすること。 	<p>空の駅について、他空港の状況等を参考にし、観光物産等の一層の活用方法などについて空港ビル会社等と協議や提案を行っていききたい。</p>
<p>境港市麦垣町の小篠津町市道から431号線につながる交差点への信号機の設置</p>	<p>今後の交通状況を見ながら検討する。</p>